



クラブ運営方針：ロータリー・ムーブメントに 新たな光りを！

2014-2015年度

広島北

ロータリークラブ週報



Rotary Club of Hiroshima North
2015年2月26日発行 Vol. 1424

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン 氏
国際ロータリーテーマ

LIGHT UP ROTARY
ロータリーに輝きを

■会長 河本 浩一 ■幹事 合田 尚義
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2015年2月26日(木) 第2215回
ロータリーソング 「それでこそロータリー」
来客紹介 ローラー家族親睦委員会
入会式
会長時間
幹事報告
委員会・同好会報告
ニコニコ箱
卓話時間 「年男の弁Part4」
神農 洪明 会員
松田 宜久 会員
丸本 佳生 会員

前回例報告 2015年2月19日(木) 第2214回

ロータリーソング 「手に手つないで」
来客紹介 ローラー家族親睦委員会
会長時間
幹事報告
委員会・同好会報告
ニコニコ箱
卓話時間 「年男の弁Part3」
越智 健剛 会員
浦 信一 会員 (新会員卓話)

IM報告&お礼



高原ガバナー補佐より先日14日(土)に開催したIMのお礼と報告があった。

会長挨拶

会長 河本 浩一

皆様今日は。ご来会のお客様、ようこそお越し下さいました。会員一同歓迎申し上げます。
先ほどガバナー補佐の高原先生からご報告がありました通り先週14日、当クラブがホスト役となり、RI2710地区グループ6・7合同のIMが開催されました。
当日、組曲『IM=110』は聴衆600名を前に、IM実行委員長＝山坂さんの一糸乱れぬ指揮、コンサートマスター＝副実行委員長の中山さんのもと、幹事＝合田さん、アナウンサー＝久保田さんによるデュエット司会で凛と張り詰めた会場の中、さながらプロムナードを思わせる旋律が語りかけるように開演しました。

基調講演の池上さんからは、今、連日のように報道されている中東の民族問題を朗々と謳いあげ、第一主題がわかりやすく響きわたって新しい旋律と変奏を重ねさせながら高調してゆきます。やがて「学び続ける力」の主題が、ショウペンハウエルの言葉を引用して高らかに鳴らし、終結部のクライマックスへと極まりゆくと、満場の拍手喝采が会場を髣髴とさせて終演を迎えました。特に、学び続ける力として読書の必要性を上げ、ただ漫然と読むだけでは、脳の中の運動場をまわっているだけに過ぎないのだ、と。そこで必要なのは自分の中に内容を一度無条件に取り込んで対峙し、自分の頭で再び反芻しながら考えるのが本当の読書の意味だ、と強調されていたのが特に印象的でした。まさに様々なIT情報が飛び交う中、読書人口減がやまない現在、その読書術はなお新しく重く響いてきます。池上さんの湧きいずる知識と滲み出る人間の知恵には、万感迫るものがあり、会場は感銘と歓喜の坩堝と化しました。
改めてここに当クラブの会員各位の一人ひとりに、深甚なる敬意と深い感謝を込め、会長の時間を終わります。誠に有難う存じます。

幹事報告

*例会欠席予定表の運用について
*2015-16年度版ローラー手帳の予約受付
*IMプログラム(BOX配布・欠席者のみ)

委員会・同好会報告

国際奉仕委員会 丸本委員長
タイで行った浄水器設置事業について広島陵北RCで卓話をさせていただきます。
職業奉仕委員会 坪内委員長
3月12日の職場訪問例会の回答期日を過ぎていますので、未回答の方は早急に出欠をお知らせください。

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【自主出宝】

河本会員・中山会員・合田会員・二井本会員・佐々木会員
先週のIM開催にあたり、山坂実行委員長をはじめ実行委員会の皆様大変お疲れ様でした。また、会員の皆様の多大なるご協力のおかげでホストクラブとして、高原ガバナー補佐の主催のもと、立派なおもてなしができました。ありがとうございます。心より感謝申し上げます。本日の「年男の弁」楽しみにしております。越智会員、浦会員よろしくお願ひいたします。
河本会員・合田会員 秋山さん、本日はようこそ、当クラブ例会にお越し頂きました。来週の入会式を楽しみにしております。
高原会員◇ IMは皆様のお陰で成功の裡に終わり、ほっとしています。ありがとうございます。
山坂会員・中山会員・坪内会員 先日のIMでは皆様に大変お世話になり、ありがとうございます。ご協力のお陰を持ちまして盛会裏に終えることが出来ました。感謝申し上げます。

丸本会員 来週の水曜日にリーガロイヤルホテルで行われる広島陵北RCの例会において、昨年度創立45周年記念事業で行ったタイ・バンコクの小学校浄水器設置事業について講演をして参ります。メークアップの必要な方や、昼食を食べに「応援」に来て頂けると嬉しいです。どうぞよろしくお願い致します。

合田会員 来週25日(水)の、広島陵北RCの例会におきまして、当クラブの丸本会員が、昨年度の国際奉仕委員会のタイ浄水器寄贈事業について卓話をされます。丸本さん、しっかりと頑張ってきてください。私も例会に出席させて頂きます。

岡部会員 合田幹事、IMの司会お疲れ様でした。約束通り、噛んだ数だけニコニコをお願いします。

金井会員 先日のIMの準備の際、勝手にお弁当を食べてしまい、数が足りなくなりました。大変申し訳ありませんでした。

高原会員◇ 孫が念願の希望校に合格し、大変喜んでます。

前会員◇ 先週の例会でサイフを忘れて帰りました。お世話をおかけしました。

当日計 23,000 円(内、web8,000 円) 累計 963,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『年男の弁Part3』

越智 健剛 会員
(1967年8月生まれ)



本日2月19日は、私が伝統ある広島北RCに入会してちょうど6周年の記念日です。

さて、年男の弁ということで何を話すか考えましたが、当クラブには私と同じ昭和42年生まれが5人います。丸本会員・松田会員・下川会員・最近入会した浦会員・そして私の5人です。その昭和42年生まれがどのように人たちのなかをお話しようとおもいます。

まず生まれた昭和42年ですが、明治維新からちょうど100年。東京オリンピックが行われて3年という年に生まれました。また、丙午の翌年ということで、出生数が多い年でありました。同級生には、清原・桑田のPLコンビ。サッカーでは、三浦知良・武田修宏。大相撲では貴闘力。テニスでは松岡修造。芸能界では坂上忍・織田裕二・江口洋介・伊集院光など。政治の世界では蓮舫。そして最近話題の人物でいけばイスラム国で殺された後藤健二。(彼は、私と大学の同級生です。全く面識はありませんが)というようにどこの政界でも熱い男たちが多いです。プロ野球では巨人が3連覇し、大相撲では大鵬が年3度優勝する、ちょうど巨人・大鵬・卵焼きの世代です。芸能界では、グループサウンズが大流行し、ブルーコメッツやザ・タイガースやスパイダースが活躍していました。佐良直美の「世界は二人のために」やザ・ピーナッツの「恋のフーガ」が流行っていました。テレビの世界ではウルトラセブンが始まり、ラジオではオールナイトニッポンや、「永六輔の誰かとどこかで」が始まりました。社会では、東洋工業がロータリーエンジンを搭載した「コスモスポーツ」を発売。四日市ぜんそく訴訟が始まりました。吉田茂が亡くなったのもこの年の10月20日です。

そんな生まれ年ですが、3歳の時に大阪万博が開催。4歳の時に安佐動物園がオープン。6歳の時に遊園地のナターリーがオープンするなど、日本の高度成長の名残による子供の時の楽しい思い出が何となく記憶の片隅に残っています。小学校に入学した昭和49年には長嶋茂雄が引退しました。カープが初優勝し

た昭和50年は小学2年生でした。小学校高学年からザバストテンが始まり、松田聖子や中森明菜などのアイドルを追いかけていた世代です。一昨年の朝ドラのあまちゃんも自分たちの若いころと重ね合わせて見ていました。高校時代は、野球のことは記憶にありませんが、同級生に清原桑田がおり、1年生の時から夏の甲子園優勝で、ずっと彼らを目標に頑張っていました。高校3年生の時に「夕やけにゃんにゃん」という番組が始まり、おにゃんこクラブがブームになりました。そのおにゃんこクラブが着ていたセーラーズというショップが有名になり、大学受験に行った同級生たちがその渋谷のお店に並んだというのを自慢していました。ちなみに現在では新幹線で最速広島東京間4時間を切る速さですが、当時はまだ最速で5時間かかる時代でした。

そして何よりも私たち世代の大きなポイントは、学生時代にバブルを迎えたことです。学生の分際で新宿歌舞伎町はもとより、銀座・六本木・赤坂と楽しい日々を送っていました。ディスコも全盛で、ジュリアナ東京で短いスカートをはいた綺麗なおねえさんがたがジュリセンと呼ばれた大きな羽根のセンスを振り回しているのを見学に行ったものです。また、二十歳の時に「私をスキーに連れてって」という映画がはやり、スキーブームが起きました。当時、女性を口説くときには、必ず「今度一緒にスキーに行こうよ」とみんな言っていました。この一言にはいろいろな意味があり、東京ではなかなか日帰りではスキーが難しく、一緒に泊まろうと言っているのと同じでみんな大変重宝しました。その中でプリンスホテルに誘うのが、一番確率が高く、その中で苗場が一番喜ばれるスキー場でした。苗場プリンスホテルはワールドカップスキーの選手村を目的で建てられたホテルで、大変壁が薄く隣りの部屋の話し声まで聞こえるような状態でした。ちなみにこのバブル時代の話は全て友達から聞いた話で私は一切このような体験はありません。お金がない学生でも、高収入のアルバイトはたくさんあり、勉強よりもアルバイトばかりしていました。

そして、その影響は就職活動にも大きく影響しました。史上空前の売り手市場と言われ、どこにでも行きたい会社に入れるような状態でした。一部上場企業に先輩を訪ねていくと、いきなり応接室に通され、人事部長が出てきて第一声の内定を出させていだいてよろしいでしょうかと言われました。まだ、履歴書も出してないのにです。その時私は、たぶん当時の学生の多くがそうであったように「内定ぐらいでしたら」と答えていました。そうすると人事部長が「ありがとうございます。うちの工場が岩手にあるんですが、来週来てもらえませんか」と。あごあし付の大名旅行のお誘いです。当然、その日は、銀座に繰り出し楽しいひと時を過ごさせて頂きました。当時銀座でタクシーを拾うのは非常に大変で、電話もなかなかつながらず、人事担当の若手社員が、テレホンカードを片手に公衆電話で何度もダイヤルをしていました。そして10月1日の正式な内定解禁日には、内定旅行という形で拘束されました。私は熱海温泉でしたが、海外旅行も珍しくありませんでした。

そんな形で就職した人間が、会社に入って役に立つわけがありません。入社後すぐにバブルが崩壊し、多くの同世代の人たちは、会社の中で不良債権化していきました。そして、その人たちがまた自分の身の丈にあった会社を選ぶために第二新卒という言葉までできました。

このような時代背景と共に成長してきた私たち昭和42年生まれを少しは理解していただけたのではないのでしょうか。

最初に紹介した当クラブの5人がなぜ、お酒が大好きで、遊び好きか分かっていただけかもしれませんか？

しかし、この5人がこのクラブにいるということは皆それなりに頑張ってきたからだと思います。

これからも伝統ある広島北RCの名を汚さぬよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

浦 信一 会員
 (1967年6月生まれ)
 (2015年2月5日入会)



みなさんこんにちは。今月5日に入会させていただきました浦信一でございます。

それではまず自己紹介からさせていただきます。名字が浦ひと文字と大変めずらしいのですが、名前のルーツは鹿児島県です。鹿児島県の北西部、熊本県天草の下あたりに長島という小さな島があるのですが、父方はそちらの出身になります。お酒、特に焼酎好きのかたであればオレンジのラベルの「島美人」といえばピンとくる方もいらっしゃるかも知れません。昭和47年に橋が架かるまでは、フェリーでしか行き来できないような不便な島でしたので、島内での結婚も多く、長島町では珍な名字なのですが、私は、今まで長島出身以外の浦性の方には、金沢勤務時代に一度しかお会いしたことがありません。

母方は、長島町にほど近い鹿児島県の阿久根市の出身になります。職員の給料を開示したり、リコールを何度もうけた竹原信一市長といえば思い出す方もいらっしゃるかも知れません。テレビ番組の日本の社長で有名だった宮尾すすむは母と同じ阿久根中学校の出身だそうです。九州新幹線のルートをはずれ、赤字路線はJRから切り離され、第3セクターでなんとか「オレンジひさつ鉄道」が運行されており、地域の衰退は否めませんが、昔は漁業で栄えた活気ある町だったようです。

兄弟は、2つ下に弟が5つ下に妹がおり、それぞれ結婚していて甥っ子が5人います。一番うえの子は今年大学受験で、いい年をして結婚していない私は肩身の狭い思いをしています。

私自身は、昭和42年6月に広島市中区の吉島で生れ、吉島幼稚園、吉島東小学校、吉島中学校を卒業とずっと吉島で育ちました。幼少のころは、自転車にはいつもグローブとヘルメットがカゴに積んであって、友達と外で遊ぶ元気な子供だったと思います。入学したのは吉島小学校だったのですが、2000人を超えるマンモス校となったため、吉島東小学校が新設され小学校4年生のときに半分に分かれました。現在、吉島小学校の隣に事務所があり細々と仕事をこなしているのですが、私が小学生だった時の休憩時間といえば、校庭で遊ぶためのスペースの取り合いで芋洗いのようになっていますが、今は休憩時間の校庭も児童はまばらで寂しい感じです。となりの吉島保育園は園児がいっぱいで、少子化とともに待機児童の問題を感じずにはいられませんし、自分が少子化の原因のひとつかと思うと多少責任を感じております。それから当時は、吉島の学区には中学校がなく、現在の大手町商業高校、広島特別支援学校の敷地にあった大手町中学校に通っていたのですが、中学3年生の時に吉島中学校が新設され、吉島中学校の記念すべき第1回卒業生となりました。趣味である野球は、小学校4年生の時に地元の少年野球チームに入って本格的に始めました。吉島中学校時代は全国中学校軟式野球大会に出場、私はピッチャーをやっており、1回戦でノーヒットノーラン、大会自体は2回戦敗退で全国ベスト8という成績だったのですが、思えばこの15の夏が人生のピークだったかもしれません。

その後周りの勧めで、甲子園を目指して崇徳高校に進学し、野球部に入部したのですが、高校時代は、かばんにはお弁当とユニホームしか入ってなく、授業中はひたすら寝て、2限と3限の間に早弁、昼休みは崇徳生なら誰でも知っている学食のカツ弁を食べて、部活をして夜遅く帰宅すると言った感じの高校生活でした。高校生活のほとんどを野球に費やしたにもかかわらず、残念ながら甲子園出場はならず、エースナンバーを付けたこともありましたが、最後の夏は結局10番で、準決勝まではいったのですが、広

陵高校に12対2と大敗を喫して私の高校野球は終わりました。ちなみに2回からリーフし、6点を献上して試合を決めたのが私でした。その結果私の野球のレベルでは通用しないことを痛感して、野球以外の進路を考えざるを得なくなりました。

とはいえそれまで野球しかしたことがなく突然暇になっても何をしたいのかわからない状態が1週間ぐらい続きました。その後、夏休みに大学受験用の補習授業をやっていたので、そこでぼちぼち学校に勉強をしに通うようになり人生で初めてまともに勉強することになります。どうしても東京に出てみたいといった気持ちがあり現役では東京の大学を中心に受験したのですが、1年目は志望校に受からなかったため、親に無理をいって浪人させてもらい、駅前の河合塾に通いました。

当時広島駅前には、地元の学習塾や駿台予備校、代々木ゼミナールなども進出しておらず、予備校といえば河合塾とYMCAくらいしかありませんでした。河合塾のビルが駅前に何棟もあってそこに何百人という予備校生が通っていたことをおもうと、代々木ゼミナールの予備校閉鎖もすごい時代の変化だなあと感じます。

浪人時代に人生で初めて本気で勉強したのですが、友達と遊ばないよう完全夜型で、深夜から翌日の昼くらいまで、1日、10時間前後勉強していたと思います。これを1年間継続した結果、なんとか志望校の1つであった早稲田大学教育学部に合格し、念願の東京生活を送ることになるのですが、勉強の目標が東京の大学に受かることで、勉強してどうするといった先の目標がなにもなかったため、授業に出ることはほとんどなく、バイトして稼いだお金を友達と大学近くの居酒屋でお酒を飲んで使い果たすといった無益な学生生活を過ごしてしまいました。

特にやりたいことがあったわけではなかったため、就職活動で最初に内定をもらえた富士ゼロックス株式会社に入社することになるのですが、当時は、大学4年生の春先から就職活動が始まって、10月が内定解禁日だったので、内定解禁日には各企業が学生を囲い込んで旅行に連れて行ってホテルに監禁といった感じでした。今考えればすごい時代です。

平成3年4月に入社した富士ゼロックス株式会社で最初に配属されたのは、東京の銀座支店でした。職種はコピー機の営業だったのですが、私の能力不足でまったく売れずかなり苦戦しました。百万円売り上げるまで帰ってくるなどか、お客様の住所を調べて自宅に夜討ち朝駆けと個人情報保護が厳しくなった現在では考えられないような営業もしていました。28の時に金沢支店に転勤、その後名古屋支店へ転勤することになるのですが、こちらあたりで将来定年までゼロックスで働いている自分がイメージできず、資格試験の勉強を始めて広島に戻ってくることになります。富士ゼロックスを辞めるときは、32になっていたので資格試験の勉強に長期間費やすわけにもいかず、不動産鑑定士を目指したのもご飯が食べられそうな資格の中で、比較的短期間に取れそうなものという安易なものでした。とはいえ1回では合格できず、2年目になんとか合格することができました。その間に、実務経験を積むため株式会社コスモシステムという全国に支店がある不動産鑑定士の会社に転職していたのですが、独身で資格も持っているといった人材が扱いやすかったのでしょうか、30代は、広島から名古屋、名古屋から福岡、福岡から広島と2～3年おきに各地を転々とするようになります。みそかつ、味噌煮込みうどん、あんかけスパ、博多ラーメン、モツ鍋に水たきと、名古屋も福岡ものおいしい食べ物があってお酒も美味しく言うことなかったのですが、私がいまだ独身なのは、少人数の支店で一番大事な30代を転勤だらけで過ごしたということにさせてください。決して人として問題があるわけではなく、ただただご縁がなかったということとで宜しく願いいたします。

その後、転勤で広島に戻ってきたのが平成18年39才の時です。広島に戻ってきたのですがリーマンショックで会社の業績が悪化し、広島支店を縮小するといった流れになり、東京本社に転勤

するなら雇ってやれるというお話はあったのですが、それを断って独立開業する決心をしました。

平成20年7月末で会社を辞め、同年8月に浦不動産鑑定事務所を開業し、今年で7年目になります。

ここからは少し不動産鑑定士のお話をさせていただきます。

普通に生活しているとなかなかなじみのない職業なのですが、なにをしているかという、普段は、月に2回程度送られてくる、国土交通省が不動産取引の買主に送付して回収したアンケート結果を調査、分析して、どの地域でどのような価格水準の取引が行われたか把握し、不動産評価のためのデータを蓄積しています。そのデータを基に行う主な仕事が、国土交通省から委嘱をうけて行う地価公示、これは毎年決まった地点の1月1日時点の1㎡あたりの土地の価格を不動産鑑定士が評価して3月に発表されるのですが、日本で一番地価が高いのは東京の銀座4丁目、山野楽器であるとか、広島では八丁堀の三菱UFJ信託銀行であるとか新聞やニュースで報じられるので少しなじみがあるかもしれませんが。これと似たような事業で、広島県が行う都道府県地価調査というものがあるのですが、これは地価公示とは違った地点の毎年7月1日時点の価格を評価するものです。そのほか、国税庁からの依頼で相続路線価の基準となる土地の評価、市町村が課税する固定資産税の課税の基礎となる土地の評価、国、県、市町等が事業を行うために用地買収等を行う際の基礎となる土地の評価など、なかなか表にでることは少ないのですが、課税や公的な用地買収の場面にはほとんど不動産鑑定士がからんでおり意外と身近なかもしれません。

みなさんお気づきになられたかもしれませんが、地方圏で不動産鑑定士が行う仕事の大半はお役所が相手、試験に合格し登録するとある程度収入が見込めるといった特徴があります。これは、独立開業を考えるとまったくゼロからといったことになってしまう可能性がある他の資格職にくらべると不動産鑑定士が恵まれているといわれるゆえんかもしれません。

先日2月26日の中国新聞に、広島の若手弁護士を中心に国選弁護人の希望者が増えているとの記事があったのですが、その中に、広島県内の地裁、地裁支部、簡裁で2014年に起こされた民事訴訟は計6801件で、ピークだった2009年の1万4749件からわずか5年で半減しているという記事がありました。親族間の殺人やスーカ殺人、小さな子供が犠牲になるなど、刑事事件は増えている印象ですが、民事事件は減少しているようです。私も広島地方裁判所民事の不動産執行で競売の評価人をやらせていただいているのですが、競売の申し立て件数も減っており、民事事件が少なくなっているというのは世の中にもめごとが少なく平和でよいことなのかもしれません。競売評価人は、裁判所の執行官と一緒に現地調査を行い、評価書を作成するのが仕事で、債務者は住宅ローンや借入金の返済が出来ないことから、不動産を取り上げられることなるため、一般的には債務者が調査に協力的であることは少ないのですが、田舎で子供も独立してしまって一人暮らしのご年配の方は、我々のような不動産を取り上げる側の人間でも、普段話し相手が少ないので、お茶を出してくれて長時間話し相手になったり、また、不動産を売却して財産をなくさない和生活保護を受けられないから早く話を進めて下さいとニコニコしながら丁寧に対応していただける債務者の方に遭遇することがあるのですが、社会のひずみを感じずにはいられません。

昨今は国や市町村の財政難もあって不動産鑑定士が関係する事業の予算は削られてきており、我々の業界も年々厳しくなっています。そんななか、相続税の基礎控除額が5000万円+1000万円×法定相続人から、3000万円+600万円×法定相続人と従来の6割に減額され、相続税を納付しなければならぬ人が大幅に増えることが予想されます。最近、会社のオーナー様から個人と会社所有不動産の所有権の付け替えを行う際に、税務

署に適正な価格で売りましたよと言った証明のために不動産鑑定評価書の依頼を受けることが散見されるようになってきているので、不動産の所有権の付け替えをすることにより、法人税や土地建物の譲渡所得の損益通算等の規定の範囲内で、少しでも法人税や所得税、相続税等の負担が少なくなるようにと考える方が多くなっているのかもしれない。

また、消費税率が8%に上がり、さらに10%になろうとしています。日本における中古不動産においては、民法や税法では土地を建物は別々不動産という前提で法律が定められていますが、実際の流通の過程では土地と中古の建物は一体で取引され、土地いくら、建物いくらといった感じで土地と中古建物の価格が区分して明記されない場合が多くあります。この場合、消費税で土地は非課税、建物は課税対象であることから土地と建物に価格を区分する必要があるのですが、個人として中古不動産を購入する場合は非課税である土地に多く配分し、消費税の課税事業者である場合には、建物の消費税は控除の対象となりますので、できるだけ建物に多く配分した方が有利といった事情もあり、中古不動産の取引総額を適正に配分しましたといった証明のため、不動産鑑定士に評価依頼されるようなニーズもさらに広がるのではないかと思います。

このような感じで、従来の公的な仕事だけでなく民間からの依頼も税金がらみのニーズが多く、開業当時からライフワークになってしまったことがあります。それは税理士試験の勉強です。税理士試験は、1度受かった科目は生涯有効で5科目合格すれば税理士になれると言ったもので、仕事をしながらでもコツコツ続けられると言った試験なのですが、最初に平成20年に1科目合格してから昨年までで、なんとか4科目合格しており、今年最後に1科目を合格することが、年男である私の今年最大の目標でもあります。私がこの伝統ある広島北RCに入会させていただけることになったのは、河本会長、不動産鑑定士の大先輩である森嶋先生の推薦をいただいたことはもちろん、本日、年男の弁で卓話をした越智会員、来週卓話予定の松田会員が同級生でなじみがあったこともキッカケになっています。

越智会員は、高校時代は野球のライバルであった広島商業高校出身、松田会員とは同じ崇徳高校出身ではありますが、松田会員が所属していたアメリカンフットボール部も狭いグラウンドのレフト側で練習しており、野球部がバッティング練習を始めると打球がアメフトの部員に当たったり、当時は一触即発の犬猿の仲でありましたが、すべて水に流し、分からないことは丁寧に教えていただけそうなので、少しだけ甘えてみようかと思えます。

まだまだ入会させていただいて2週間と、右も左もわからない状況でご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、みなさまにご指導いただきながら、微力ではありますが、ロータリー活動の一助となれますよう頑張りたいと思いますので、これから宜しくお願いいたします。

本日は、私のつたない卓話をご静聴いただき、誠にありがとうございました。

■出席報告 出席委員会

2015年2月19日(木) 会員数 86名
出席 72名 欠席 14名 ゲスト 1名
2月5日例会出席率 100%

■来客紹介 ロータリー家族親睦委員会

秋山 竜一 様(次回入会予定者)

■次回例会ご案内 2015年2月26日(木)12:30~

卓話 「公共事業が日本を救う」
京都大学大学院工学研究科
教授 藤井 聡 氏
食事 幕の内